

## 令和7年度第2回神奈川県看護職員の確保及び資質向上推進委員会 議事録

### 【事務局】

ただいまより令和7年度第2回神奈川県看護職員の確保及び支出向上推進委員会を開催します。竹村委員は10月に実習病院連絡協議会の副会長職を退任されたため、本日はご欠席となります。以降の議事進行は本館委員長にお願いします。

### 【本館委員長】

よろしくお願いたします。

報告について事務局から説明をお願いします。

### 【事務局】

報告資料1 令和8年度看護関連事業について

報告資料2 令和6年度神奈川県就業実態調査結果について  
に沿って説明

### 【本館委員長】

ご意見等がありましたらご発言をお願いします。特にないようでしたら議題に入ります。本日の議題は、看護職員の確保についてです。事務局から説明をお願いします。

### 【事務局】

資料1 看護職員の確保について  
に沿って説明

### 【本館委員長】

ご意見等ありましたらご発言をお願いします。

看護師養成所の教育の立場から岡本委員いかがですか。

### 【岡本委員】

非常にシビアな状況だと思いました。現実的な問題として入試の多様化をして、学生を多く受け入れる、一方でその学生たちのモチベーションを上げながら学習支援し、卒業させて国家試験に合格させるには非常に努力が必要です。総合型入試の学生はパフォーマンスが得意で発言する力がありますが、基礎学力が低いことを自覚していて留年したり成績が追い付かなかつたりという現状です。そういう学生を4年間サポートするためにはマンパワーが必要ですが法人や学校だけではなかなか難しい。マンパワーを備えて実習も非常に優れている養成校には補助がつくような制度があると学校側も動いてくれるのではと思います。

ました。また協議会では専門学校には教務事務員を置いてほしいという意見があります。教務事務員が非常勤あるいはいないという学校もありますし、1人ではなく複数人配置できるための補助がほしいという意見もあります。教員をサポートする、あるいは教員のマンパワーを充実するような体制が整うと学生に対して質の高い教育ができ、卒業させることができるのではないかと考えています。

#### 【佐藤委員】

学生の多様化は国家試験の合格率につながっていると実感しています。総合型選抜で入学した学生たちは、意欲はありますが基礎学力が若干足りないし、学習する習慣が不足している。意欲だけでは国家試験の膨大な範囲を学びきることは難しいので、各学校で力を入れており予備校の活用等を含めて支援していますが、それでも難しいと感じています。国家試験は順位ではなく、看護師になるために必要な知識、技術等を問われている中で、そこを学びきれない学生が増えていると思います。また一方で本校は4年制という特徴があっても出願数は右肩下がりです。昨年度と比べ約20名も出願数が減っている中で、定員を確保しましたが、入試形態によらず、学生にかける支援が複雑化しており、非常に困難さを感じています。併せて神奈川県の特任教員の応募者数が少なく、なり手がいない。本校はなんとか専任教員の定員確保できましたが、多様化する学生たちを支援するためには定員の見直しも必要ですが、増やしたところで本当に補充されるのか、課題が複雑に重なっていると思います。これは本校だけの問題ではなく県内の専門学校においても同じだと思いますので、どのあたりに行政の策を入れてもらえるか考えていけたらいいと思います。

#### 【本館委員長】

定員を確保するために入試の工夫をしているわけですが、パフォーマンスや意欲はあっても基礎学力が低下して卒業までこぎつけるのが難しい。そこを支える教員の数、その教員を支える事務職員の数に課題があるということがわかりました。このような学校の状況を受け病院管理者の立場から小澤委員をお願いします。

#### 【小澤委員】

看護教育の現場が非常に厳しい状況というのは分かりましたが、受け入れ側としてはなり手が少なくなっているのが問題だと思います。看護学校の充足率が年々下がっている数字を見ますと、そこをまず何とかしないと今後厳しくなると感じています。看護職はやりがいのある職種ですが、あまり給料が高くないのも問題だと思います。すぐには解決できないことだと思いますが、いかに看護職の魅力を若い世代に伝えて、看護学校に気持ちを向けてもらえるかということになる。小・中学校とか若い世代への看護教育を盛んにしていくことが大事だと思います。教育現場に医療職種が入って講義をしたり勧誘したりすることはハードルが高い部分もありますが、地域の病院が地域の学校と協力してより積極的に

やる必要があるのではないかと感じています。また卒後について充実した臨床教育を求めて大病院、中核病院に行くのは当然の事だと思いますし、そういう場所でしっかりと臨床教育を受けることは大事ですが、その後のキャリア形成、その先は個人の適性に合ったキャリアの方向性を作ること、そういう情報を伝えてあげることが大事だと考えていて、県で事業化した「かながわ地域看護師養成事業」は看護職が地域で働き続けていくことが期待されています。事業化したのでしっかり活用していく。そうすると卒業後のキャリアが個人の適性にあったキャリアに繋がっていき、長く看護職にとどまっていくことにつながると思います。それによって看護職が長く勤められる職種だということも伝えられると考えています。

#### 【横井委員】

教育現場で大変な苦勞をして国家試験に合格して現場に来るのですが、臨床もその延長線にあります。一人ひとりの個性、ペースに合わせ臨床に馴染めるように人も時間もかけて独り立ちさせるのですが、現場ではマンパワーが足りないので非常に苦勞しています。メンタルが理由の退職が3年目まで非常に多いという点については、メンタル支援も含めた専門的な技術の習得、看護師としての資質の向上、知識の習得を本当に丁寧に教育しています。人が充足しない中で、そこにかかる時間と人を確保するのに非常に困難を感じているのが現状です。その後、3年、4年、5年となった時に初めて異動となると思うのですが、そこにたどり着くための方策を整える必要があると感じます。

#### 【本館委員長】

教育の現場でも、臨床の現場でも、最初の教育環境の整備はかなり重要だというお話でした。訪問看護ステーションの立場から鈴木委員ご意見をお願いします。

#### 【鈴木委員】

こどもの数が少ないので看護だけでなくどの業種でも18歳の人に来てほしいというのは切実な願いだと思います。基礎学力について看護教員の方に頑張ってもらっているということですが、看護師ではなくアシスタントティーチャーの雇用に県で補助をつけるとか、高校卒業した方の基礎学力を上げるのは難しいかもしれませんが、意欲だけではどうにもならないようですし、せっかく看護師を志望して入学していただいたので、看護だけではなく教育の専門の方がいるとよいのではと感じました。

教員の高齢化については、確かに求人において年齢は上がっていますが、60代で看護学校に来てもらっても、という雰囲気はあるようです。

看護師は高校生女子のなりたい職種ランキングの上位なのに、魅力がない、受験者が少ないのはなぜなのか、考えたほうがよいと思います。

**【本館委員長】**

確かに、目指したい仕事なのに実際は入学しないという差があります。  
基礎学力の低下で苦勞されているという現場からのご意見はいかがですか。

**【佐藤委員】**

例えば国語は読み取る力、推測する力が看護師として非常に大事になる。本校でも一般教養も含め国語専門の先生に入っていただき強化しています。アシスタントティーチャーではないですが、特化して国語や数学を学べる時間を作り、学生たちを支援するというのはヒントになると思いました。入試で数学を外す学校が増えていますが、看護師は業務に必要なので本校では外していません。でも学生確保のために数学を外している学校があるということはお伝えしたいと思います。

**【本館委員長】**

大学の立場から岡本委員はいかがですか。

**【岡本委員】**

アシスタントティーチャーはよい考えだと思いました。本校では医療系学部でも生物や化学、物理が分からない学生がいるため、「いまさら聞けない生物」というような講座を開設しています。ただ学内の教員が行っているためか、学生が来ない状況なので、外部の先生に学習の仕方からサポートしてもらうのは一つの方法だと思いました。読み解く力も数学も大事で、どこの学校も選択科目について苦慮しています。国家試験を見ても、非常に読解力が問われ、文章量が増えています。文章量が増えるということは情報がたくさんあるので成績のいい学生にとっては非常に回答し易いのですが、読解力が求められる。そこに至らない学生には国語、読み解く力に関してサポートが必要だと思います。AIについても正しく使うためのゼミなども開講してサポートが必要な状況です。学習のサポートは非常に有効だと思いました。

**【本館委員長】**

修学継続について現状の説明やご意見がありました。  
医師のお立場から高井委員はご意見をお願いします。

**【高井委員】**

状況は年々厳しく、あまりいい方向に向いていないのが残念です。資料では経済困窮者や社会人に向けての奨学金は有効ではないか、とありましたが全体としてはどうでしょうか。ここ数年の県の奨学金枠は増えていますか。お金を使いある程度改善しうる方法は奨学金だと思いますし、近県、例えば静岡の高校生に神奈川県で看護師になってもらうよう

魅力の発信と金銭援助が必要だと思います。若年人口の減少や、診療報酬抑制などで他業種に対して経済的メリットが少なくなっているといった構造的なことはこの場で議論しても仕方がない。県が看護大学を作れるのであればある程度改善するでしょうが、そうはいかない。ならば県として奨学金やほかにどういうことをこれからしていくのかを聞かせたいと思います。

#### 【事務局】

県の看護師等修学資金貸付金については、毎年新規貸付が約 200 名、全体で 600 名弱の方に、金額としては 2 億弱で運営しています。拡充という点では令和 5 年度より保健師の修学資金の取り組みを新たに開始していますが、看護師については現状の厳しい状況を受けて見直しできておりません。養成校の急速な定員充足率低下の状況も踏まえ、何らかの見直し、手を打っていく必要があると考えています。特に県内養成校の定員が埋まらない状況を改善するために、できるだけ受験者・入学者を増やす方向で、今は経済的要件がありませんので、要件を付与することにより、経済的な事情で入学の難しい人呼び込む、社会人・既卒者の修学のきっかけにする、そういう人が増えるような取り組みができないか考えています。養成校へのアンケート結果を報告しましたが、各養成校でも経済的な奨学金等の取り組みがされていますので、県として後押し・支援する方向で舵を切りたいと思います。

もう一つは県自体もマンパワー的にかなり厳しい状況です。毎年修学資金が増えて債権管理に非常に時間がかかっています。例えば経済的事情がある人に対しては返却不要とし債権管理業務自体をなくすというような効率化の取り組みも併せて検討していきたいと思えます。

#### 【本館委員長】

入学者を増やすための修学資金の拡充、魅力の発信に加え、入学後の修業継続を支えるためのマンパワーに大きな課題があるというお話でした。

加藤委員お願いします。

#### 【加藤委員】

県では令和 8 年度の予算として再就業支援のナースセンター事業費や養成支援として昨年度より 500 万円以上増額すると伺っています。働きやすい職場環境、看護学生育成を県として支援していると感じています。

私自身が大学を出てすぐ看護専門学校に進学したので、既卒者を看護学校へというのは有効だと思います。基礎学力もある程度ありますし、勿論色々な方がいますけれども、看護倫理、看護の魅力や国家資格者としての矜持を発信することは有効だと思いますので、各学校で行っている経済的支援などの情報を集約化したり、日本看護協会や厚生労働省でも

看護師のキャリア、ライフプランについてホームページ等で情報発信されていますので、そういうことを伝えたりしていただければと思います。

また、有料職業紹介について転職だけでなく離職時の問題も増えてきています。先日、日本医師会・四病院団体協議会業務病院団の有料職業紹介事業に関するワーキンググループで「医療分野における人材確保と有料職業紹介事業等の適正化に向けた提言」を出しています。この資料の中でも看護職について言及されていて、労働局がナースセンターや自治体、各病院と共同で、不正な人材紹介に関する相談窓口を開催しています。有料職業紹介で何が行われているかという、紹介後にもコーチングのような形で担当者がついて連絡を取り続けて半年後とかに「どうですか、別の病院も紹介できますよ」と言っているケースもあるようです。適正なその職業紹介も含め病院や看護学校が自分達の魅力の発信を上手に行うことが大事だと思います。

生成 AI については看護分野でも色々活用されていますが、正しく使う技術が非常に大事です。看護師は何かあれば最終施行者としての責任が問われます。AI が判断したからというのは理由になりません。その一方で効率的に行うためにマンパワーだけに頼らず、テクノロジーを使いながら進めていくクリエイティブな仕事であることも看護の魅力の一つだと思います。そういう情報をうまく発信していただきたいと思います。

また、教員の事務サポートも本当に大事ですのでこちらもぜひご検討いただきたいと思います。

#### 【本館委員長】

様々な参考になる情報提供をありがとうございます。

社会人入学について、例えば課題であるとか促進する視点であるとかございましたら佐藤委員お願いします。

#### 【佐藤委員】

本校は4年制専門学校なので社会人入学は少ないです。令和8年度入学予定者82名中81名が18歳、1名が大学卒業者で例年同様です。社会人が看護師を目指す際に4年かかるのは生活もありますし、万が一学業がうまくいかなかった時にさらに時間をかけてまで看護師になるだけの猶予があるのかということもあります。4年制看護専門学校に関しては社会人の方をお迎えはしたいのですが、実際来ていただく数は少ないのではないかと思います。ただこの先18歳人口が減少する中で、社会人は看護師養成のターゲットになると思いますので本校も社会人枠についての話は挙がっています。年限の問題等、日本看護協会が進める4年制教育との齟齬を教育現場では感じていますので、それも含めて総合的に看護師を志す人達を迎え育てるのか、学校から臨床への一連の流れで考えていければと思います。

**【本館委員長】**

本日は看護師確保にテーマを絞り深掘りしてディスカッションができたのではないかと思います。事務局には今回いただいたご意見もふまえて引き続き事業の検討、実施をしていただくということでまとめたいと思います。（委員同意）

**【事務局】**

長時間にわたり活発に議論いただきありがとうございました。本日の議論をふまえて引き続き検討を進めてまいります。

これをもちまして令和7年度第2回看護職員の確保及び資質向上推進委員会を閉会いたします。